

# 採血に伴う合併症

採血は十分な知識に基づいた上で、安全性の高い手技で行います。合併症の頻度は少なく、また軽症なものが多いとされていますが、まれに次のような健康被害が生じることがあります。採血にはこのような合併症が伴うことをご理解下さい。

## アレルギー

採血時の消毒薬やスタッフの手袋(ラテックス)などでかゆみや発疹をはじめとするアレルギー症状が出る場合があります。

### アルコール

採血室には非アルコール性消毒用綿がありますので過去にそのような症状がみられた方は採血者にお申し出下さい。

### ラテックス

採血室で使用している手袋や駆血帯の素材にはラテックスが含まれていません。ご安心ください。

### 絆創膏やテープ

小さい絆創膏や乾綿、包帯などを使ってお止めますので採血者にお申し出下さい。

## 止血困難・皮下血腫(青あざ)

採血後に、血が止まりにくかったり、青あざや皮下血腫(皮膚の下の血のかたまり)が生じたりすることがあります。止血が不十分であることが主な原因です。

- 採血直後は**5分間以上**、採血したところを十分に圧迫止血してください。
- 採血当日は採血した腕で重い荷物を持つことは控えてください。
- 血をさらさらにするお薬を服用されている方や血が止まりにくい方はお申し出ください。止血をしっかりいたします。ただし圧迫止血は十分に行ってください。

## 神経損傷

採血後も手指へ広がる痛み、しびれなどが持続することがあります。

- ▶**肘の血管**の近くには、比較的太い神経が走っている場合があります。採血者はこれらの神経を誤って刺さないよう最大限の注意を払っています。
- ▶しかし神経と血管の位置関係は個人差が大きいので、**ごくまれに**これらの神経に針が触れてしまう場合があります。頻度としては1万回～10万回に1回程度起こると報告されています。
- ▶症状はまれに半年以上続くことがありますが、大部分は特別な治療をしなくても数日や数週間以内に改善します。
- ▶以上の理由からも肘部での採血が難しく、前腕や手の甲で採血を行った方が安全だと判断する場合がございます。どうぞご理解ください。

## 血管迷走神経反応

神経が興奮し、急激に血圧が下がるため、めまい、気分不快感、意識消失などを引き起こすことがあります。心理的に緊張や不安が強いと起こりやすいとされています。

…大切なこと…

その①  
採血が初めての方、このような経験をお持ちの方、緊張が強い方は、必ず採血者にお申し出ください。安全な**ベッド上で採血**を行います。

その②  
採血前、採血中、採血後にめまいや気分が悪いなど**少しでも体調の変化を感じられた場合**は、スタッフにすぐに申し出てください。早めに横になり安静にすることで早期の回復を図ることができます。

上記合併症が起きた場合には最善の処置を行います。これらの症状が起きて診察を要した場合にかかる医療費は通常の保険診療扱いとなりますのでご了承ください。

説明文の中でご不明な点、疑問点がありましたら、採血室スタッフにおたずねください。